

各位

積水ハウス株式会社

2012年度の年間植栽本数100万本を達成

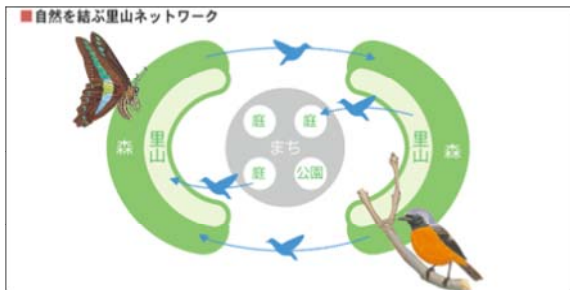
～ 2001年「5本の樹」計画 開始以来、累計913万本 ～

積水ハウス株式会社（本社：大阪市北区、社長：阿部俊則、以下「積水ハウス」）は、お客様と自然に対する思いを共有しながら推進している庭づくり・まちづくりにおいて、2012年度に初めて植栽本数年間100万本を達成しました（2012年度実績 101万本）。

積水ハウスは、エクステリア事業の売上が年間500億円規模となる、日本最大の造園会社でもあり、その事業を支えるのが2001年から取り組んでいる「5本の樹」計画です。これは、良い住まいは「家」と「庭」が一体となってはじめて実現できるとの考えのもと、田んぼや雑木林など人が手を入れることによって生態系の豊かさを維持する「里山」の仕組みを手本とした庭づくり・まちづくり提案です。「5本の樹」は、「3本は鳥たちのために、2本は蝶たちのために」との思いを象徴的に込めたネーミングです。

日本列島を5つの気候風土に区分し、それぞれに適した自生種・在来種を中心に、お客様とともに庭に植栽することを提案します。住宅地の緑を郊外の森や里山と結んで、生き物を支えるネットワークを形成し、拡大することで生態系保全に貢献しています。同時に、自宅の庭で野鳥を身近に招き、四季の移ろいを感じることができ、子どもの情操教育にも生かします。2011年に掲げた先進の技術（SMART）で快適で潤いのある暮らし（SLOW）を実現するブランドビジョン「SLOW&SMART」とも直接リンクしており、スマートコモンシティなどの分譲地やマンション、賃貸住宅「シャームゼン」が複数棟連なる「シャームゼンガーデンズ」などのまちづくりにおいても「5本の樹」計画を推進し、積極的に“まち”の緑量を確保しています。

こうした取り組みを継続してきたことにより、取り組みを開始して11年で、植栽本数は累計913万本となりました。



2013年度は、年間植栽本数110万本（累計1,000万本突破）を目標に生物多様性の保全に向けた取り組みも積極的に推進してまいります。

※積水ハウスの事業年度：2月1日～翌年1月31日

■「5本の樹」計画の推進に向けた主な取り組み

①庭木セレクトブックの制作・配本

→「5本の樹」の樹種と生き物の関係などをカラーで紹介。2001年の発行以来、約15万冊を配本。

②「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトの運営（2007年から）

→鳥や蝶、樹木の名前を知らなくても形や大きさ、色の特徴から検索可能。鳥の鳴き声の再生も可能。

③「みどりの専門家（グリーンエキスパート）」を専門研修で養成

→積水ハウスグループ内でエクステリアの専門家を育成する研修を実施。社内資格「グリーンエキスパート」を認定。

④「いきもの調査」で効果を確認（2008年から）

→「5本の樹」計画のまちづくりの前後で、生き物の数を調査。周辺環境との違い等から生物多様性貢献度を検証。

(参考資料)

【「5本の樹」計画の推進に向けた取り組み】

①庭木セレクトブックの制作・配本

お客様に「5本の樹」計画やエクステリアに対する関心や理解をより深めていただくことを目的として、「庭木セレクトブック」を制作（2001年発行）。

A4カラー・180ページに及ぶ、各樹木の特徴を簡潔にまとめた“庭木図鑑”です。「どんな樹木にはどんな鳥がやってくるのか」など、招きたい鳥や蝶で樹木を選べるINDEXや、南北に長い日本のエリア別の気候風土にあった樹木の分布がわかる構成になっています。

（編集協力：シェアリングアース協会 藤本和典氏）



②「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトの運営(2007年から)

「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトのトップページは「野鳥をしらべる」「蝶をしらべる」「庭木を検索する」などのメニューから始まり、それぞれ指定されたメニューから選択していけば条件に合う鳥などの画像が表示され、絞り込めるという仕組みです。

樹木からそこに集まる鳥の情報、鳥からそれが集う樹木の情報などの逆引き検索もできます。鳥や蝶の名前を知らなくても、色や大きさなどの外見の特徴から容易に検索できるほか、樹木については、樹の大きさ、葉、花や実などの形、色などの特徴からも検索が可能です。収録データは、鳥24種、蝶24種、樹木92種で、庭先に呼べる鳥や蝶と「5本の樹」計画で推奨している樹木を前提に選定しました。

従来の活字媒体での自然観察図鑑の場合、鳥の鳴き声が文字で「ツーピーツーピー」「キーンキーン」などと表現されており、実際に野山で自分の耳で聞き分けることが難しいという難点がありましたが、本システムでは音声で確認でき、入門者や子どもにもわかりやすくなっています。

また、お客様が「5本の樹」を選定された場合、QRコードが印字された「植栽カード」を付けさせていただきます。携帯電話で専用サイトにアクセスすると、その樹木の解説・お手入れ方法や、樹木に集まる鳥や蝶の情報などを入手していただくことができます。



植栽カード

URL: <http://5honnoki.jp>



イメージ図

③「みどりの専門家(グリーンエキスパート)」を専門研修で養成

積水ハウスグループには、「一級造園施工管理技士」は467人、「二級造園施工管理技士」は323人が在籍しています(2013年5月8日現在)。その中から社内の専門研修を行い、一定基準を満たした社員を社内資格の「グリーンエキスパート」に認定しています。「グリーンエキスパート」は庭木それぞれの性質や適した土壌などを専門的に理解し、庭木の剪定や管理手法など、みどりに関する知識を豊富に備えており、全国各地で活躍し、「5本の樹」計画の推進に寄与しています。

2006年に認定を開始して以来、「グリーンエキスパート」は現在43名となり、そのうち「樹木医」資格を有する社員も14名に上っています。



研修時の実習の様子



ガーデン教室の様子

④「いきもの調査」で効果を確認(2008年から)

「いきもの調査」とは、当社分譲地において鳥や昆虫などの生息状況を実際に観察し、周辺地域との比較を行うとともに、植栽の成長に伴う生態系の経年変化を分析し、生物多様性の保全効果を検証するものです。2008年9月に愛媛県松山市の分譲地で実施した調査を皮切りに、全国7カ所の分譲地で順次調査を始め、2009年夏の調査実施をもって経年変化を分析できるようになりました。調査により、実際に植栽の成長に伴って鳥の種類が前年度の2倍以上に増加したり、周辺地域よりも分譲地内の生き物の種類が多いという観察結果が得られています。

「5本の樹」計画が生態系に与える効果をNPOや専門家にも協力をあおぎ、評価分析するもので、住宅メーカーが自社の分譲地を対象として行う生物多様性の調査は、他に例のない取り組みです。また、地域の住民が身近な環境で楽しみながら生物多様性について学ぶ機会となる、住民参加型の「いきもの観察会」も実施しています。



住民参加型の「いきもの調査」の様子